



始まっています！ 厚真高校魅力化促進事業

現在、厚真町では町教育委員会を中心に「厚真高校魅力化促進事業」を進めています。全国で40以上の高校魅力化プロジェクトを手掛ける経験豊富な「株式会社Prima Pinguino（プリマペンギノ）」のサポートを受けながら、2人（令和4年3月より1人増員予定）の「教育魅力化支援員（地域おこし協力隊）」が厚真高校と連携しながら魅力を磨き上げています。プリマペンギノ代表取締役、藤岡慎二さんのインタビュー内容をもとに事業の現状について紹介します。

記事執筆 株式会社エーゼロ厚真／問い合わせ 町教育委員会 学校教育グループ ☎27-2494

少子化の影響を受け、全国の高校で統廃合が進んでいます。日本ではこの10年間で約6分の1の高校がなくなっており、1年で統廃合されるのは50〜60校です。特に離島や山間地域で統廃合が進んでいます。離島での例ですが、診療所の有無よりも高校の有無のほうが人口減少に与える影響が大きく、高校がある離島とない離島のU・ターンの数の差は20倍になるといったデータもあるそうです。

また、地方創生系シンクタンク（調査・研究機関）の調査では、中山間地域を出る理由の第2位が「その地域に高校がなく、通学困難だから」という結果が出ており、地域から高校が無くなると地域の人口増減にマイナスの影響を与えることが伺えます。その影響を避けるため、地域の高校の魅力を強化し、入学する生徒を増やすことで自ら高校を維持できるようにする「高校魅力化プロジェクト」が全国的に広がっています。厚真町でも一昨年から厚真高校魅力化の準備を進めてきました。



高校魅力化促進事業が動き始めた厚真高校

少子化の影響 統廃合の続く高校 全国で広がる高校魅力化プロジェクト

新型コロナウイルス感染症に関する

支援情報

国民健康保険料、後期高齢者医療保険料、介護保険料の減免

新型コロナウイルス感染症の影響による収入の減少などの理由で国民健康保険料、後期高齢者医療保険料、介護保険料(65歳以上)の納付が困難となった方は、申請により保険料の減免が受けられる場合があります。

●対象保険料
令和3年4月1日～令和4年3月31日の納期限のもの

●対象者(世帯)
下記①、②のいずれかに該当する者(世帯)
①新型コロナウイルス感染症により、主たる生計維持者が死亡、または重篤な疾病を負った場合
②新型コロナウイルス感染症の影響により、主たる生計維持者の事業収入など(事業・不動産・山林・給与収入)の減少が見込まれ、次のすべてに該当する場合

[国民健康保険料、後期高齢者医療保険料]
・事業収入などいずれかの減少額が前年の当該事業収入等の額の10分の3以上
・令和2年中の合計所得金額が1,000万円以下
・令和2年中の合計所得金額のうち、事業収入等に係る所得以外の所得の金額が400万円以下
※10分の3以上の減少が見込まれる事業収入等に係る令和2年中の所得が0円以下の時は、保険料減免の対象外です。

[介護保険料]
・事業収入などのいずれかの減少額が、前年の当該事業収入等の額の10分の3以上
・令和2年中の合計所得金額のうち、事業収入等に係る所得以外の所得の金額が400万円以下

●減免額
①全額
②対象保険料に令和2年中の合計所得金額の区分に応じた減免割合を乗じた額

●申請に必要なもの
申請書、被保険者証、印鑑、医師の診断書など感染した事実が確認できる書類の写し、収入を証明する書類など

●受付期間
令和4年3月31日(木)まで

●問い合わせ
[国民健康保険料、後期高齢者医療保険料]
住民課 町民生活グループ ☎26-7871
(総合ケアセンターゆくり内)

[介護保険料]
住民課 福祉グループ ☎26-7872
(総合ケアセンターゆくり内)

令和3年度子育て世帯への臨時特別給付金

国の「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」として、0歳から高校3年生までの児童を対象に「令和3年度子育て世帯への臨時特別給付金」が支給されます。

●支給対象者
①令和3年9月分の児童手当受給者(※申請不要)
②令和3年9月30日時点で高校生(平成15年4月2日～平成18年4月1日生まれ)を養育している児童手当の本則給付相当の受給者である者並びにそれに準ずる者
③令和4年3月31日までに出生した新生児の児童手当受給者
※児童手当の特例給付受給者は対象外

●支給額
対象児童1人あたり10万円
●申請が必要な方
・高校生の子のみを養育している方
・公務員の方で、令和2年度子育て世帯への臨時特別給付金以降に厚真町に転入または出生のあった方
・児童と別居している公務員の児童手当受給者の方
※申請が必要な方には案内等を送付済みです。届いていない方はご連絡ください。

●支給時期
・①の方は昨年12月28日に支給済みです。
・申請が必要な方は、申請書を受付・審査後、随時支給いたします。
※昨年12月1日以降に児童が出生し、児童手当の申請をした方で認定審査待ちの方については、認定後に給付金を支給いたします。
※昨年9月30日以降に厚真町に転入した方は、転入前の市区町村から支給されます。

●申請期限
3月31日(木)まで
●申請先、問い合わせ
住民課 子育て支援グループ ☎26-7872
(総合ケアセンターゆくり内)
上厚真支所 ☎28-2311



高校魅力化を実現する「4つの柱」

藤岡さんは高校魅力化を進める際に4つの柱があると言います。厚真町では、まずは「公営塾」の準備を進めており、その推進のため昨年8月から教育魅力化支援員に着任した川嶋圭さん、加藤千昇さんの2人が奔走しています。

1 公営塾

単に学力の向上を目指すための学習塾ではなく、高校と地域が連携し生徒が自ら目標を発見して多様な人と交流し挑戦する場、放課後の居場所にもなる。



公営塾準備室に集まった高校生。厚真町産のシイタケのほだ木を前に「これ、どうやったらシイタケ育つと思う？ やってみようよ」と会話が弾む。

2 カリキュラム改革

その地域や高校でしか学べない独自のカリキュラムを作る。「PBL(Problem Based Learning。問題解決型学習)」「STEAM教育」「探究学習」といった、自らが課題を見つけ自らが解決する力をつけるための学習方法を活用する。

3 教育寮

生徒だけでなく、地域の大人や学生とも交流してリーダーシップやコミュニケーション能力を育む共同生活の場とする。

4 生徒たちの主体的な活動

一例ですが愛媛県立弓削高校では、生徒自らが「起業の会」をつくりビジネスコンテストに応募。これを機に「起業部」が誕生し、生徒たち自らの手によりさまざまな課題解決プロジェクトにつながっている。生徒の主体的な動きをきっかけに具体的な形を作っていく。

株式会社 Prima Pinguino 代表取締役
藤岡慎二さん

(株)プリマペンギノ代表取締役。1975年生まれ。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了。2006年に教育コンサルティング会社、現 株式会社Prima Pinguinoを設立。現在は産業能率大学経営学部教授としても活躍。「地方創生の取り組みとして『ローカルベンチャー事業』には大変興味があり厚真町にはぜひ関わりたいかった。ローカルベンチャーハイスクールなど実現できたら面白い」とのこと。

藤岡さんへのインタビュー記事「厚真高校を魅力的な高校にするプロジェクト、始動！2022年1月に「公営塾」がオープン」はこちらよりご覧いただけます。



主体は厚高生。 高校「生活」魅力化プロジェクト。

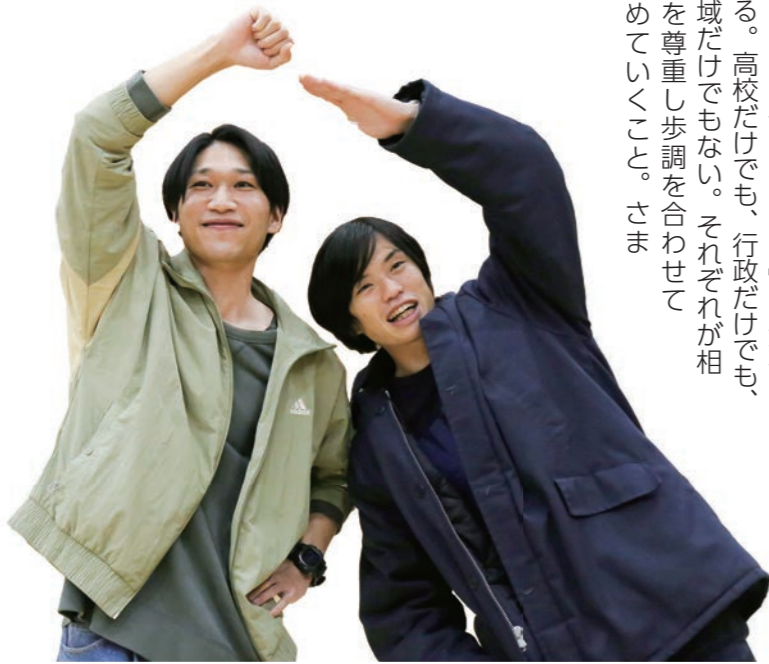
川嶋さんと加藤さんは、「厚真高校でどのような公営塾にすれば良いか？」を探るため、厚高生との対話や地域の人のコミュニケーションを通じて関係づくりを進めています。「何のために？」どのような公営塾が必要か？」の話し合いを重ねていく中で、二人は「寄り道」というキーワードにたどり着きました。

川嶋さんは大学生時代に雨が降ればすぐに洪水になるような中国の農村に留学し、新卒で入社した会社を退職した後は自給自足のような生活をしていました。加藤さんは学生時代に積極的に大学外の人間関係を作り、社会人になってからも友人と一緒にM11グループにエントリリーしてみるといった「寄り道」を経験してきました。その途中での出会いや経験が今の自分の支えとなっていて、その時間が本当に有益だったという実感があるといいます。厚真町には面白い人がたくさんいるので、厚高生には公営塾に寄り道している人なに出会って欲しいと呼びかけます。

二人は「高校魅力化」という言葉は「地域の高校がどうあるべきか？」という大人目線の印象が強いと感じ、

より大切なのは「高校生にとってどうか？」の目線ではないかと思いましたが、その意味から「高校『生活』魅力化」ではないか？と思いつきました。公営塾は今年1月にプレオープンし、4月から本格的にスタートする予定です。藤岡さんは言います。高校魅力化プロジェクトを成功させるには「地域と呼吸を合わせること」が大事である。高校だけでも、行政だけでも、地域だけでもない。それぞれが相手を尊重し歩調を合わせて進めていくこと。さまざま

さまざまな寄り道を経験し高校生とも年齢の近い支援員2人と、全国で実績のあるプリマペンギノ社のタッグが、地域とともに事業を進めていく。そうすることで高校魅力化は輝きを増していきます。町民の皆さまのご支援とともに今後の展開にご期待ください。



高校魅力化支援員として活動中の加藤千昇さん（左）、川嶋圭さん（右）。加藤さんはインドネシアへの留学時に「日本をもっとよく知る必要がある」と感じ、この取り組みでも厚真町をよりよく知る必要があると語る。川嶋さんいわく「厚真町で一番中距離走が速い」とのこと。このコンビが厚高生とともに厚真町でどのような魅力を見つけていくのか楽しみです。

講演会を開催しました

昨年12月6日、総合福祉センター2階青年会議室にて「全国に広がる高校魅力化プロジェクト 最新＆最深事例と厚真町での取り組みについて」と題して、藤岡さんを講師にお招きし講演会を開催しました。

オンラインでの配信も含め町内外で約100人が参加しました。今後も厚真町の取り組みに関わる事例を中心に講演会を企画・開催する予定です。

